

女範

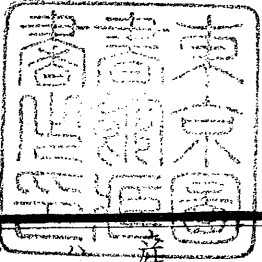
小田深藏譯述

卷之中

大日本教育會館			
函	架	號	冊
二〇	一	二九	三
函	架	號	冊

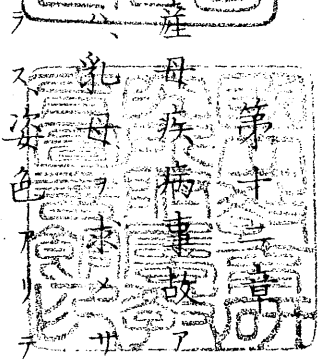
176
6
307

K



女範卷之中

岩代 小田 淳藏 譯述



乳母 傅婢

産母 疾病 事故
 乳母 之 來 由
 乳母 之 選 擇
 乳母 之 養 育
 乳母 之 撰 入 亦 容 易 ナ
 リテ、自 嬰 兒 ヲ 養 フ 能 ハ サ ル キ
 ル 可 ラ ス、乳 母 ヲ 撰 ム 亦 容 易 ナ
 眼 目 清 亮、脣 部 ニ 疵 傷 無 ク シ テ
 齒 牙 清 白、胸 部 虚 弱 ナ ラ ム シ テ 乳 房 健 全、其 乳 汁
 ハ 白 色 ニ シ テ 稍 青 ヲ 帶 ヒ 水 様 ニ シ テ 臭 氣 ナ ク
 味 微 甘 ヲ 含 ム 者 ヲ 良 ト ス、先 ツ 此 徵 候 ヲ 第 一 ト シ

女 範 卷 中

更ニ性質良温ニシテ心神快暢、舉止嫺雅ニシテ
年齢二十歳ヨリ三十歳ノ者ヲ撰ムヘシ、而シテ
其婦女ハ首産ノ者ヲ寢良トス、且其免身産母ト
時日ヲ同クスル者ハ、乳児ノ爲ニ寢益アリ、或ハ
否ラサルモ産母ニ後ル、六七週以内ニ在ル者
ヲ求ム可シ、
傳婢モ亦爽快健康ノ人ヲ撰ハサル可ラス、例之
齟齬口臭アル者ノ如キハ、食餌ヲ嚼テ児ニ餵メ
ル毎ニ必其児ノ健康ヲ害ス、又斜視偏盲及ヒ吃
訥ノ如キハ、児其嚶ニ倣ヒ、終ニ習成性ノ恐アリ、

故ニ是等ノ婢ハ一切之ヲ用キル_レ勿_レ、又老人
ヲ取ル_レ勿_レ、老人ハ其生氣既ニ衰ヘ、嬰兒發育
ノ力ヲ相助クル_レ能ハサルノミナラス、却テ其
力ヲ奪取スル_レヲ以テナリ、而シテ其性質ニ於ケ
ル殊ニ意ヲ注キ放恣頑慧ナル者、或ハ恣怒_レ易
キ者、若クハ粗暴ナル者ハ決シテ用キル可ラス
凡傳婢卑陋ノ性行ハ小児ノ容易ニ習熟スル所
ト為_レハナリ、

第十三章 器玩

小児ノ器玩ヲ禁スルハ理ニ於テ當ラストス、蓋

小兒生々發育ノ機能之ヲ翫弄スルニ相適セル
 ヲ以テナリ、但、器翫ヲ授クルニ極メテ注意ヲ加
 ヘシヲ要ス、否、サレハ其危害ヲ蒙ムル少ナシ
 トセス、故ニ其口中ニ含ミ且燕下シ得ルカ如キ
 小器翫ヲ與フ可ラス、又洋製色料ヲ施装セル器
 翫ヲ禁ス可シ、洋製色料ハ總テ有毒ノ藥石ヨリ
 成ル者ナレハ、兒若シ之ヲ甜ルルハ其害極メテ
 大ナリ、鉛、錫製ノ物件モ兒往々口中ニ含ムヲ以
 テ殊ニ有害ニ屬ス
 凡、器翫ハ小兒ノ心ヲシテ樂マシム、且其物質名

稱ヲ知ラシムルノ功用アリ、故ニ時々其物件ヲ
 交換シテ之ヲ與フレハ、小兒悦ブト、逾、深シ、終始
 同品ナルルハ、兒之ヲ珍弄セス、必、厭心ヲ生シ、終
 ニ之ヲ破毀シ、其形ノ變スルヲ喜フ者トス、是其
 之ヲ破毀スルヲ好ムニ非ス、其形ノ變スルヲ見
 ント欲シテナリ、故ニ器翫ハ其堅牢ニシテ毀損
 シ易カラサル者ヨリ、寧、其形ノ種々ニ變スル者
 ヲ良トス、然レ、極メテ毀損シ易キ物件ヲ與フ
 レハ、兒其毀損スルヲ喜ヒテ何物ヲ問ハス之ヲ
 破毀スルノ念ヲ起ス者ナリ、且之カ為ニ其手足

ヲ損傷スルノ恐アリ是ヲ以テ母タル者ハ數種ノ器翫ヲ備ヘ時々之ヲ交換シテ與ヘン_一ヲ要ス然ルキハ小兒モ之ヲ悦ヒ且數種ノ物件ヲ記得スルノ益亦少ナカラス

第十四章 小兒病徵

九小兒ハ百骸ノ形器未_タ全ク備ラステ内外ノ刺衝ヲ受クル_一極メテ強シ是ヲ以テ病ニ罹ルモ亦甚容易ナリ故ニ母タル者ハ常ニ其兒ノ體質ヲ熟知シ異常ノ景况ヲ見ルキハ速_カニ之カ處置ヲ為サ_ル可ラス乃_チ小兒眠ニ就キタルキハ

脉動心動ヨリ呼吸體温ニ至ルマテ能コレヲ檢察スヘシ其元進セル者ハ既ニ熱之ヲ冒スノ兆ナレハ早ク良醫ニ就キテ其景况ヲ曲折シ以テ其治ヲ乞_フ要ス小兒各稟性ノ同シカラサ_ル其病徵モ異ナル所無キニ非スト雖_レ今其概畧ヲ舉クル左ノ如シ

小兒ノ顔色或ハ赤ク或ハ青ク額燎クカ如ク呼吸急促シテ口渴シ脉元進シテ心動強ク安眠セス俄然トシテ啼叫シ戰慄スルハ是發熱ノ徵候ナ_リ九熱ハ諸病皆之ヲ發ス平生健康ノ兒俄ニ之

ヲ發スルモ日ナラスシテ去リ、其健康ヲ害セサル者アリ、斯ノ如キ者ハ恐ル、ニ足ラスト雖又危險ノ病因ト成ルヲ居多ナルヲ以テ忽諸スルヲ勿レ、早ク鑿ノ診斷ヲ乞ハサル可ラス、小兒是ノ如キ症狀ヲ顯スハ、鑿ヲ邀フルノ際、先ツ之ヲ卧内ニ安シ被覆其宜シキニ適セシメ、温保其度ニ過キレム可ラス、其渴シテ飲ヲ欲スル者ハ宜シク冷水ヲ與フ可シ、

夜間俄然トシテ咳嗽ヲ發シ、呼吸促進シテ煩悶スルハ、是馬脾風ノ惡徵ニシテ、小兒温室ヨリ出

テ、俄ニ外間ノ酷寒或ハ烈風ニ感スルヨリ起ル者トス、此病ノ危險ナル普ク知ル所ニシテ大約十二時間之ヲ等間ニ舟シテ顧ミサルハ鑿療其功ヲ萎セス、忽焉トシテ鬼藉ニ入ル、寂怖ル可キノ病ナリ、此時ニ當リテハ先、兒ヲ起シテ温湯ヲ飲マシメ、且海棉ヲ温湯ニ浸シ能之ヲ壓定シテ口鼻ニ加ヘ、温氣ヲ呼吸セシメ、且頭ヲ温包シテ以テ鑿ノ來ルヲ待テ其處置ヲ受クルヲ至要ナリトス、

小兒ハ二十四時間ニシテ通利數回ナルヲ常ト

ス、故ニ終日一回ノ通利ナケレハ其害タル知ル
 可キナリ、若シ秘結ニ日ニ彌ラハ鑿ノ診斷ヲ乞
 ハサル可ラス、但、他病ノ侵スナキ者ハ微温湯ノ
 灌腸ヲ行フヲ以テ足レリトス
 初生児ハ一晝夜ニレテ屢次溲溺スルヲ常トス
 二歳ヲ越エテ漸、其度ヲ減ス、凡百ノ病症皆溺ニ
 徴セサルモノナシ、故ニ溲溺異色ヲ見ハシ或ハ
 其量ヲ減シ或ハ其時ヲ錯ルキハ、其景況ヲ告ケ
 テ鑿治ヲ乞フ可シ
 遺溺ハ例シテ膀胱ノ大刺衝ヨリ續發ス、故ニ適

宜ノ攝生法ニ由テ之ヲ治スルヲ得ヘシ、小児臨
 卧ニ時前ニ先チテ宜シク消化シ易キ食餌ヲ與
 フヘシ、而レテ晚ニ際シテ溺ヲ催進ス可キ諸飲
 料ヲ禁セサル可ラス、且晝間其膀胱漸々多ク瀦
 留スル溺ノ刺激ニ慣レ漸々長ク之ニ耐エシム
 ルヲ要訣トス、且臨卧及ヒ拂曉ハ之ヲ呼起シテ
 其利溺ヲ促ス可シ、
 遺溺ノ專、頑情ヨリ來ル者ハ嚴ニ微戒ヲ加ヘテ
 矯正ス可シ、若シ懲戒ヲ畏レサル児ニ在リテハ
 夏楚ヲ加フルモ亦要無キニアラス

小兒輕症ノ下利ハ、飲食ノ節度宜シカラス、或ハ難化ノ食品ヲ食スルニ起因ス、或ハ用キル所ノ乳汁惡質ニシテ腸胃ニ酸敗ヲ起スカ為ニ發スル者多シ、一日三四回ノ下利ニシテ其色甚ク青カラス、而シテ體貌常ニ異ナル所ナケレハ則テ憂フルニ足ラス、能之ヲ温保シテ酸味ノ菓實ヲ與フ可シ、其二日以上ニ至リテ尚止マス、或ハ腹痛ヲ帶ビ或ハ熱ヲ發シ、食欲缺損スル者ハ必、他病ノ繼症ナリ、又蠶浴ヲ怠ル可ラス、腹痛ハ種々ノ原因ヨリ來ルト雖大抵過度ノ飲

食ヲ因テ發スル者多シ、居是、其疼痛三三時ヲ經テ止マス、且手ヲ以テ輕々之ヲ撫摩スルモ其効ヲ見サルキハ、蠶療ヲ加ヘサル可ラス、而シテ腹部ヲ按スルニ、痛ク劇クシテ或ハ凝塊アリ且熱ヲ帶フル者ハ苟輕視スルト勿レ、又小兒ノ呼吸酸味ノ臭氣甚クシキ者ハ、腸中酸敗汚物アルク徴ナリ、是一ハ乳汁ノ惡質ニ因リ一ハ消化機ノ衰弱セルニ因ル、此時ニ當テ慈母慎ミテ飲食ヲ節度シカメテ植物ヲ食セス肉類ヲ用キ且能、肢體ヲ運動シテ其乳質ヲ改良スルニ注意ス可シ

既ニ斷乳セル兒ニ在リテハ、其食料ヲ檢シテ糖
果果實ノ類ノ如キ酸敗シ易キ者ハ一切之ヲ禁
セサル可ラス、
顛額痙攣ハ兒生レテ直チニ寒氣ニ觸レ或ハ黑尿
全ク排除セスレテ腸中ニ遺殘スルカ、或ハ乳質
ノ惡キニ因テ發スル者ナリ、早ク之ヲ治術ヲ施
サ、レハ、其拘攣漸々全クニ波及シ、遂ニ死ニ歸ス
ル、一ニ日ヲ出テス、顛額ノ筋肉凝結シテ口ノ開
閉自在ナラス、為ニ疼痛ヲ發シテ啼叫スルハ是
此病ノ徵候ナリ、苟此徵候ヲ見ルハ直チニ之ヲ

醫ニ告クマシムルハ、其病ニ速ニ治スルニ在リ、
兒ノ寒暑ニ慣レサル者ハ、皮膚ノ感覺鋭敏ニシ
テ、動モスレハ感冒シ或ハ咳嗽ヲ發シ易シ而シ
テ、其遷延彌久スルキハ、終ニ重病ヲ起シ生命ヲ
戕賊スルニ至ル、但此病ヲ預防セシニハ、兒初生
ノ時ヨリ早ク寒暑ニ慣レシムルニ在リ、
小兒眼疾ニ罹ルキハ速クニ醫治ヲ乞ハサル可ラ
ス、其眼中焮炎シテ赤色ヲ呈シ、眵ノ出ツルキハ、
母兒ノ眼ヲ開キ其乳汁ヲ射注シテ眵ヲ洗淨ス
ヘシ眼疾ハ初生兒ヲシテ太陽玻璃燈ノ如キ爛

々タル光輝ニ觸レシメ或ハ兒躰ノ洗淨ヲ懈リ
或ハ砂塵其眼ニ入り或ハ洗浴ノ時兒ノ面部ヲ
洗フニ別ニ清湯ヲ用キサルニ起回スル者居多
ナリ
驚口瘡ハ初メ白點ヲ舌上ニ生シ次テ頤ヨリ脣
ニ及ホシ其甚シキハ胃ノ粘膜ニ傳播シ腸ニ蔓
延ス加之慈母ノ乳房ニ感染シテ劇痛ヲ發スル
者アリ此病ノ原因ハ身体口部ノ洗淨ヲ懈リ或
ハ哺乳器ノ不潔ヨリ醸セル酸敗或ハ酸物熱飲
等ニ因テ口中ノ粘膜ヲ刺激スルニ在リ或ハ病

母病獸ノ乳汁ヲ用キ又ハ飲食過度飲食不化胃
ノ酸敗ノ如キ是ナリ二歳以上ノ兒ニシテ此病
ヲ患ヘ身體衰弱シテ下利ヲ兼タルハ危篤ノ症
ナリ盪療ヲ加フル其期ヲ愆ツコト勿レ其輕症
ノ如キハ冷水ヲ以テ兒ノ口中ヲ洗淨スルヲ數
次ナレハ日ナラスシテ其治癒ヲ得可シ
小兒顔容皮膚並ニ衰弱シテ青白色ヲ呈シ唇齒
丹紅色ヲ失ヒ其愛ス可キ童顏變シテ成人ノ相
貌ヲ見ハスハ即チ血液消耗ノ病徵ナリ早ク盪治
ヲ加ヘサレハ危險ノ病根ト為ル

小兒ノ面貌常見ト異ナリ、眼赤クシテ常ニ淚ヲ垂レ、或ハ聾耳ヲ患ヘ、或ハ頸圍ニ腫物ヲ發スルハ是瘰癧ノ症状ナリ而シテ其頭腦漸張大シ或ハ手足ノ關節厚且大トナリ、脚骨屈曲スルハ是此病ノ尙儻病ニ變スルノ徵候トス又ハ過度ノ飲食ヲ欲シ難化ノ食品ヲ喜ヒ身體漸衰憊シテ四肢漸羸瘦シ小腹鼓脹シニ飲食不化通利不順ノ諸症ヲ見ハスモ亦尙儻病ノ徵ナリ是皆此病ノ惡兆ニシテ兒此ノ如キ症状ヲ顯ハスヤ、全瘵ヲ萬一ニ期シ難シ只之ヲ未萌ニ防ンノミ、此

病ノ素因ヲ有スル兒ハ軀體ノ成長極メテ遲ク生齒ノ期常ヨリ後レ且發語歩行ノ期モ隨ヒテ晚シ、獨其智心ヲ發スルハ常人ニ異ナルヲ無キノミ、初メ熱ヲ頭部ニ發シ遍身ニ及ホシ而シテ後熱睡シ或ハ痙攣ヲ發スルハ急性腦焮衝ノ徵トス、兒不快ノ氣色ヲ見ハシ眩暈シテ歩スルヲ得ス、或ハ頭痛ヲ帶ヒ面色變シテ瞳子散大シ且煩リニ眠リテ切齒シ食欲減損シテ通利ナキハ是漫性腦焮衝ノ徵ナリ、此病ノ原因ハ其母多病ニシテ

育兒ノ方法其當ヲ得ス、或ハ瘰癧質ノ兒ニ茶酒揮發ノ飲料ヲ與ヘ濃膏刺激ノ食餌ヲ用ヰルニアリ、又健康ノ兒ト雖モ、俄ニ頭腦ヲ寒風ニ暴シ、或ハ熱アル頭腦ヲ冷水ヲ以テ洗ヒ、或ハ俄ニ頭髮ヲ剃リ、或ハ剪ルカ如キ凡攝生其意ヲ注カサルニ起目ス、若シ此病ニ罹ルルハ萬死ニ一生ヲ保ツト難シ、此病ハ例シテ生齒ノ期ニ當リテ發スル者多シ、故ニ此期ニ當レハ戒慎シテ鹹辛刺激ノ食餌ヲ忌ミ、凡腦ノ害トナル可キ事物ハ悉皆之ヲ避ケスニハアラサルナリ、

心育

第一章 智心之發動

凡兒童ヲ教育スルハ母ノ任ナリ、教育其方ニ合フキハ、兒童健康ニシテ智心モ身體ト共ニ成長ス可シ、其教タル孩兒初メテ外物ヲ知覺スルノ徵アル時ヲ以テ始トス、蓋此時ニ於テ孩兒ノ五官及ヒ内心知覺ノ能力始メテ發動スル者ナリ、故ニ母タル者ハ孩兒初生ノ時ヨリ意ヲ其五官ニ留ム可シ、且視聽覺ノ三官ハ分娩ノ時ヨリ日ナラス發動スル者ナレハ、殊ニ其初メニ於テ懇

卷中
十一

切ニ保護ス可シ若シ孩児ヲシテ長ク烈光ニ觸
 レ又大響ヲ聞カシムル時ハ之ヲシテ畢生盲聾
 タラシムルノ害ヲ致ス故ニ視聽ノ二官ハ漸ヲ
 逐ヒ徐々之ヲ發動ヒシメンテ要ス孩児初メ
 テ智心ノ發スルヤ先母ノ顔ヲ識リ其聲ヲ記シ
 又其所在ニ注目シ目前ノ物ヲ移動スルハ其
 行ク處ヲ目送リ或ハ壁上候鐘ノ聲ヲ聽取スル
 カ如キ是ナリ夫是ノ如ク智心ヲ發スルニ及ヘ
 ハ勉メテ視聽ノ二官ヲ慣習セシムルハ其精神
 ヲ教育スルノ要訣ナリ然リ而シテ精神ヲ教育

シ智心ヲ暢發スルニ其身體ノ危害ヲ致サ、ル
 ノ術ヲ以テセズンハアラス抑兒童ハ精神ノ養
 ヲ耳目ノ二官ヨリ資ル者ナリ故ニ其養タル要
 スルニ微弱ノ兒體ニ適セルヤ否ニ心ヲ注クニ
 在リ加之至弱ノ兒童ニ在リテハ視聽ノ感覺ヲ
 激動スル百事ハ皆之ヲ避ケサル可ラヌ
 兒童智心ノ發スルニ當リテハ假令煩累ノ事多
 シト雖懇切ニ之ヲ教フ可シ世人之ヲ他日文學
 ノ教ニ付シ舍テ顧ミサル者アリ然ルハ其素
 性多少不良ノ遺種ヲ存シテ早ク既ニ其根柢ヲ

固結レ之ヲ矯正ス可ラサルニ至ル、豈哀ム可キ
 ニアラスマヤ
 孩児生レテヨリ満ニ歳ニ至ルノ際ハ、常ニ緊要
 ナル智心ノ教ニ進ム者トス、而シテ其教ハ書籍
 上ノ教ニ非スシテ、他ノ百物ヲ漸々知得スル天
 然ニ出テ、眼ニ觸ル、者ハ之ヲ望ミ手ニ觸ル、
 者ハ之ヲ弄シ、以テ日ニ其知識ヲ廣シント欲ス
 ル人性ニ基ク者ナリ、故ニ孩児ヲ育養スル者ハ
 此際尤能ク其天性ヲ修治シテ天然ノ教ヲ助ケ相
 當ノ物件ト其性質トヲ孩児ニ感知セシメ、畢生

遺忘セサラシムルノ原由ヲ為シ、以テ百物ニ留
 意スルノ能カヲ浸潤教養ス可シ、然ルルハ其能
 カ適宜ニ發生シ、終身其益ヲ享ク可シ、乃、孩児哺
 乳セント欲シ自其状ヲ以テ其意ヲ示スカ如キ
 智心ヲ發スルニ至レハ、先座旁ノ物件ヲ指示シ
 テ之ヲ教フヘシ、其物件ハカ所及單純清素ニシ
 テ醜穢ナラサル者ヲ擇ン、トヲ要ス、其之ヲ見セ
 シムル久シキニ過クヘカラス、又種々ノ物品ヲ
 彼是交換シテ指示スルハ、疑惑ヲ生スルノ基ニ
 シテ宜キ所ニ非ス、孩児ハ能力尚淺シ、是故ニ強

テ之ヲ教ヘントスルキハ其心ヲ勞スルヲ甚シク
 允^テ其宜シキニ適スルニ注意セスニハアラス、而
 シテ目ノ色ニ於ケル、耳ノ響ニ於ル都、瀏亮鮮明
 ノ者ヲ擇ヒ、其智心ヲ良好ニ導カス、ンハアラス、
 且事物ヲ視聽スルニ隨ヒ、漸意ヲ留ムルノ習慣
 ヲ得セシメ、而シテ其教養ヲ加フルキハ長スル
 ニ及ヒテ益ヲ得ル極ノテ偉ナリ、
 小兒既ニ二歳以上ニ至レハ、能力較強ヲ加フ、然
 レハ心教ヲ施スニ於テハ從前示授セシ所ヲ更
 ニ修整スルニ在リ、故ニ猶舊ニ依リテ物品ヲ指

示シ、以テ之ヲ教フ可シ、先、屋内ノ物品ヲ指示シ
 テ漸、戶外諸般ノ物品ニ及ホシ、逐次其之ヲ識別
 スルノ方法ヲ教フルヲ要ス、其教方ハ第一物形
 ヲ知ラシムルヲ緊要トス、加之圓盆ト方盆ノ異
 形ヲ示シ、扁圓ト球圓ノ外貌ヲ知ラシメ、漸、瓶、碗、
 碟、盆、瓦、日常ノ器用ヲ取テ其名狀ヲ教ヘ、戶外ニ
 出テ、ハ、荅、井、木、石ノ名稱ヲ教フ可シ、而シテ漸
 其物品ノ性質、種類、製造、功用等ニ至ルマテ懇々
 切々ニ之ヲ會得セシム可シ、是ノ如クナルキハ
 兒童現ニ實物ニ就テ其教ヲ受クルカ故ニ、必、其

身ノ為ニ實際ニ益アル夥多ノ識見ヲ得ルニ至
ラシ、
視聽ノ能力ヲ暢發セシムルニ法アリ、小兒ハ目
力未達ク達ヒス、其初メニ在リテハ、遠近ノ別ヲ
知ラス、或ハ手ヲ伸ヘテ星月ヲ探ラント欲シ、或
ハ面前物アルヲモ意トセスシテ前マント欲ス
ル者ナリ、其音響ニ於ルモ亦然リ、故ニ其作用ヲ
助ケテ之ヲ誘發スルヲ肝要トス、乃チ兒ノ曾好ム
所ノ物品ヲ一處ニ安シシ、之ヲ正鵠ト為シ、母、兒
ヲ抱キテ此正鵠ニ向ヒ近ソクヘシ、然ルキハ其

物品大約幾何ノ距離ニシテ兒ノ目力ニ達スル
ヤヲ知ヲ得ベシ、日々此法ニ據テ漸々其距離ヲ
遠クシ且物品ヲ交換ス可シ、或ハ母自速クヨリ
兒ニ向テ進ミ近ソクカ如キ、皆視力ヲシテ強カ
ラシムルノ要訣ナリ、其理、聽官ニ於ケルモ亦同
シ、故ニ其耳ニ慣レタル音聲ヲシテ近キヨリ漸
遠キニ隔テ早ク之ヲ聽取スルニ習ハシム可シ、
味嗅覺ノ三官モ亦之ヲ教ヘサル可ラス、乃チ糖果
菓實食鹽、砂糖、乳汁、水等ノ兒童ニ無害ナル飲食
少許ヲ取テ之ヲ視セシメ、然ル後其味ニ因テ此

物ノ何物タルヲ辨セシム可シ、是味官ヲ暢發ス
ルノ手段ナリ、又飲食花卉ヲ取テ代々、兒童ノ鼻
端ニ致シ、目、視ス手、摸セシテ其名稱ヲ言ハシ
ムルヲ、嗅官ヲ暢發スルノ工夫トス、覺官ニ至テ
ハ囊中ノ物或ハ布帛、金石、瓦百ノ物ヲ手摸シテ
之ヲ辨セシメ、或ハ両手ヲ背後ニ廻サシメ、其掌
上ニ小物ヲ置キテ、其名稱ヲ言ハシム可シ、

第二章 言語之教法

小兒ニ物品ノ教ヲ施スニ際シ、兼テ亦其發音ニ
注意セシムハアラス、乃其言語ヲ發スルニ當テ

ヤ、之ニ教フルニ其音節ヲ正クシ、其語勢ヲ明カ
ニシ、辭氣ノ爽然人ニ解シ得易カラシムルヲ緊
要トス、小兒既ニ智心ヲ發スルニ至レハ、母ノ發
言ト其口唇ノ動クニ注目シ、漸之ヲ學ヒテ、終ニ
發語ヲ知り、而シテ其何ノ義タルヲ自會得シ、機
ニ臨ミテ其語ヲ用キルニ至ルハ、造化ノ妙工ト
謂フ可キナリ、而シテ小兒單一ノ五音ヲ發シ得
ルハ、其耳、始メテ聞キ得ルノ期ニ在リ、此時ニ當
リテハ先、五音ヲ教ヘ漸談話ノ方法ニ及フ可シ
而シテ其語音ハ、疾激ナル可ラス、抑小兒ノ慈母

ト互ニ其意ヲ通スルノ期ニ至レハ、母ノ顔目ニ
由テ其我ヲ愛スルヤ我ヲ怒ルヤヲ察スルヲ甚
疾シ、此期ニ至レハ母亦其状況ヲ見テ其欲スル
所ヲ察シ、一々其意ニ的中スルモノナリ、母子ノ
自然ニ情ヲ通シ得ルヲ其斯ノ如ク速ナレハ、言
語ヲ教フルモ容易ニシテ、之ヲ習フモ亦甚難カ
ラス、然レハ初メハ小兒學ヒ易ク且記シ易キ、小
兒ノ言語ヨリ教ヘ起シ、其音節ヲ正レクシ語勢
ヲ明カニシ、及ヒ語尾ヲ判然タラシメスンハア
ラス、物名ノ如キハ其實物ヲ指示シテ丁寧反覆

之ヲ話ス可シ、然ルキハ小兒其發音ヲ習ヒ且其
語意ヲ會スルナリ、但唇音ヲ以テ發スル語ヲ易
シトス、

凡小兒ノ言語ヲ發スル比^トニ當リテハ、智心ノ發
達殊ニ迅速ニシテ、事ノ善トナク惡トナク嚮ニ
傲ヒテ、昏之ヲ記シ得ルヲ亦速ナリ、故ニ母タル
者ハ慎テ話スルニ訛音誤言及ヒ野鄙ノ語ヲ以
テスルヲ勿レ、小兒言語ノ正シカラサルハ、大抵
昏母ノ心ヲ注カサルニ出ツル者ナリ、小兒ハ只
他人ノ言ヲ所^レヲ聽キ、之ヲ學フ者ニシテ、素ヨリ

其可否ヲ分別スルノ思慮ナシ故ニ母ノ言語正
 シケレハ即小兒ノ言語隨ヒテ正シク鄙シケレ
 ハ亦隨ヒテ鄙シ而シテ其幼稚ノ時ニ記シ得タ
 ル言語ノ訛誤ハ成長ノ後改ムルト極メテ難
 小兒畧單語ヲ言ヒ得ルニ至レハ教フルニ文章
 即談話ヲ以テス可シ其談話ハ短篇ヨリ漸長篇
 ニ及ホシ且其助語ヲ正クシ彼是錯雜ナカラ
 一ヲ要ス而シテ兒ノ正ク語シ得ルニ至ラサル
 間ハ屢次反覆シテ之ヲ教ヘサル可ラス小兒若
 シ坐旁ノ器翫ヲ取ラント要セハ先其名稱ヲ呼

ハシメ能言ヒ得ルヲ待テ而シテ後之ヲ與フヘ
 シ又ハ像画ヲ開キ鳥獸草木ノ名稱ヲ指示シテ
 之ヲ言ハシムル如キ種々其便宜ニ隨ヒテ教フ
 ルヲ可トス
 小兒既ニ大數ヲ言ヒ得ルニ至レハ彼物品ニ由
 テ其數稱ヲ教フルモ亦須要ナリ今其數稱ノ大
 畧ヲ舉クル左ノ如シ
 獸畜蟲魚ニ一足ト云ヒ一尾ト云フ鳥類ニ一羽
 ト云ヒ書物ニ一冊一卷ト云フ布帛ニ一端一匹
 ト云ヒ書簡ニ一通一封ト云フ其他一本一枝一

重一積一口、一背一撮、一握一束、一艘一具、一輛一足、如キ物ニ随ヒ類ヲ推シテ之ヲ教フ可シ、

第三章 思慮之發達

凡宇宙間百般ノ事物五官之ヲ感覺シテ、智心之ヲ辨識シ且之ヲ互ニ比較シテ其義理本末ヲ會得スルノ能力之ヲ思慮ト謂フ、夫レ人ノ身體ニ於ケル之ヲ使役スルヲ無ク且之ヲ馴致スルヲ無ケレハ、必、嬾怠軟弱トナルヲ固ヨリ言フ待タス、精神モ亦此理ニ同シ、故ニ其能力ヲ使役スルヲ無ケレハ蠢爾トシテ進マス、竟ニ愚鈍ノ人ト為

ルヲ必セリ、故ニ其作用ノ英敏ナランヲ要セハ、適宜ニ之ヲ使役スルニ在リ、幼稚ニレテ此方法ヲ施サ、レハ成長ノ後俄ニ思慮ヲ用キント欲スルモ能ハス、是ヲ以テ母タル者ハ兒童ヲレテ智心ノ能力ヲ振起シ、事物ヲ辨識シテ、且其義理ヲ會得セシムルヲ専務トス、
小兒純一無偽ニレテ只其心ニ浮ム所ヲ言語ニ發スルニ際シテ、母タル者、殊ニ注意ヲ加ヘ、之ヲ導クニ其思慮ヲレテ謬誤ニ陥ラシム可ラス、
小兒ニ一物件ヲ與ヘテ見セシムルキハ、見ヲシ

テ其形體ト性質ヲ詳察シ、之ヲ他物ニ比較シ推
シテ思慮ヲ起サシムルヲ須要トス、故ニ小児ヲ
教フルニ、問ヲ設ケテ其理由ヲ思考セシメ、終
ニ其疑ヲ氷解シ、自一定ノ心ヲ起ス可シ、抑、思考
ハ留意ヨリ起ル者ナリ、留意セサレハ思考ヲ起
スヲ能ハス、是故ニ事物内外ノ形質ヲ思量シテ
之ヲ記憶セント欲セシムルキハ、自留意ノ念ヲ
發スルニ至ル、是ヲ以テ問ヲ設クルモ、思考ヲ起
スヘキ事物ヲ以テシ、且其疑フ所ヲ取テ他物ニ
比較シ、之ヲ辨識セントテ欲スルノ方法ヲ教フ

ヘシ、其之ヲ教フルニ先ッ一物ヲ示シテ其他物ト
異ナル所ヲ説キ、後像画ヲ展ヘ前ニ示ス所ノ同
物ヲ指シテ其効用等ヲ教ヘ、而シテ後其示ス所
ノ同物ノ所在ニ随ヒ、小児ヲシテ之ヲ取ラシメ
其名稱形骸性質効用凡其物ニ關カルノ事由ハ、
或ハ教ヘ或ハ問ヘ或ハ示シ或ハ質ス可シ、斯ノ
如クスルキハ、兎其教法ノ興アルヲ悦ビ自一物
ヲ取テ之ヲ問ヒ之ヲ質タサント欲スルノ心ヲ
起スニ至ル、此時ニ際シテ其思考ヲ一物ニ注カ
シメ、其心ヲ移スノ障碍ヲ防クヘシ、然レ其心

既ニ他物ニ移リテ沉着セサルヲ見ルモ敢テ之ヲ
 責ル^カ勿レ先^ツ心ヲ移ス^ノ他物ヲ檢索シテ速^カニ
 之ヲ除去ス可シ凡^ソ小兒ハ事ニ當リテ倦ミ易ク
 随ヒテ勞シ易キヲ以テ思慮ノ教法モ其倦厭ノ
 景況ヲ見ルキハ直^チニ之ヲ止ム可シ兒ヲシテ厭
 心ヲ生セス興致ニ乘シテ事物ヲ分解セシムル
 ニ注意ス^テ樞要トス然ルキハ兒倦マズシテ
 耐^ル其理由ヲ質問シ且之ヲ思慮スルニ至ルヘシ
 此ニ於テ一物ヲ取テ話頭ヲ起シ更ニ各種ノ物
 ヲ計較シテ解説シ復結尾ノ物ヨリ起頭ノ物ニ

遡回シテ其理由ヲ問フヘシ俾之ヲ教フルニ其
 事ノ易キヨリ漸^シ難キニ及ハシ^テヲ要ス
 物數ヲ教フルノ方法ハ先坐右ノ一物ヲ取り他
 ノ一物ト合シテニト稱スニト三ヲ合スレハ則^チ
 其數五ト稱スルヲ示シ復許多ノ物ヲ置キ其數
 ヲ言ヒ兒ヲシテ之ヲ取ラシム可シ斯ノ如クシ
 テ教フルキハ早ク物ヲ算スルノ方法ニ習熟シ
 且漸々思慮ノ能力强敏トナリ後物ヲ見サルモ
 之ヲ心ニ算シ得ルニ至ル凡^ソ母タル者ハ是等ノ
 事ヲ話シ且教フルニカノテ耐忍ヲ主トシ兒疑

ヲ質ス₇アラハ、懇切ニ其理由ヲ説キ、苟_モ偽ル₇勿レ、母ノ教フル所正シカラサレハ、兒漸_ニ母ヲ疑ヒ、教育ニ害ヲ致ス₇少シトセズ、是故ニ詰窮シテ之ニ答フル能ハサルキハ、其偽ヲ教ヘンヨリ寧_ニ知ラサルヲ以テ答フルノ優ルニ若カス、或ハ成長ノ後卽解得不可シト云フモ亦可ナリ又一且約諾セシ₇ハ決シテ違フ₇勿レ、凡_レ兒ノ善入ト為リ惡人ト為ル、皆母ノ教育ニ原キ且母ノ性行ニ由ル者ナレハ教育ノ術慎マスンハアル可ラス、

以上述フル所ハ專_ニ思慮ノ教習ニ係ル而シテ此教習ヲ施スノ際兼テ記憶ノ能力ヲ暢達スル₇ヲ教ヘサル可ラス、記憶モ亦教習ニ由ラサレハ其能力ヲ暢達スル₇能ハサル者ナリ抑_ニ記憶力ノ強弱ハ事物ノ初_ニテ心ニ感スルノ深淺及ヒ思慮ノ強弱ニ由ル故ニ此能力ヲ強實ナラシムルニハ、先_ニ一物ヲ取テ之ヲ示シ兒ノ曾_ニ知ル所ノ事物ヲ回想シテ、其心ニ浮動セシムルニ在リ兒ノ既ニ忘レタル所ノ事ヲ復_ニ教習セシムルハ益無シ心中能_ニ記シ得ルト雖_ニ卒然憶_ニ起サ、ルノ

事ヲ舉ケテ、彼是之ヲ誘キ以テ憶ヒ起シレメン
トヲ要ス、然レ尺兒ノ解シ難ク或ハ記シ難キ事
ハ強テ反覆教習セシム可カラズ、日本國盡或ハ
世界國盡等ノ章ヲ断チ句ヲ分チテ之ヲ教ヘ其
文義ヲ分解シ、然ル後漸ヲ逐ヒ每章ヲ復誦シ且
暗誦セシムルヲ宜シトス、夫レ記臆ハ一旦記シ得
タル事ヲ忘レズ、再ヒ憶ヒ起ス所以ニシテ習熟ノ
功ヲ肝要トス、故ニ母タル者ハ諄々乎トシテ之
ヲ教ヘ倦マサルニアラサレハ其能力ヲ強ムル
ト能ハス、又一時ニ數事ヲ暗記セシメント欲ス

ル片ハ却テ其能力ヲ衰弱セシムルノ害アリ、母
タル者心ヲ注カサル可ケンヤ

第四章 善心之開發

人道ノ教誨ハ師傅アリテ專ラ其責ニ任スヘシ、然
ラハ則チ師傅其人ヲ得サル固ヨリ不可ナリ、其人
ヲ得ルト雖幼稚ノ時ニ於テ善心ヲ發動スルノ
習慣ヲ得セシメサレハ尤モ不可ナリ、抑此習慣ヲ
得セシムルハ母ニ非スシテ誰カ其責ニ任ス可
キ、人ノ母タル者意ヲ用キ心ヲ盡サ、ル可ケン
ヤ、凡、人ノ善心ハ稟賦ニ因テ互ニ厚薄強弱ノ別

アリト雖要スルニ人々之ヲ稟ケサル者ナシ只
其日ニ外物ト相接シ私欲之ヲ害スルカ故ニ遂
ニ善惡其趨舍ヲ殊ニスルノミ、全ク教ヲ受ケサ
ル者ト雖固ヨリ之無キニ非ラサルナリ然レモ
母之ヲ教フルヲナク、児童ヲシテ其情欲ヲ恣ニ
シ放縱自用キシムレハ、善行ヲ修ムル規範ヲ知
ラズ、其心常ニ迷亂シテ終ニ悖德ノ人ト為ル、是
故ニ幼稚ヨリ能、其善心ヲ開發シ其性行ヲ修正
スルノ習慣ヲ得セシメハ、他日師傅ニ就キ人道
ノ學ニ從事スル、亦甚難カラス、

凡入ノ初メテ生ル、ヤ、先食ヲ欲スルノ念ヲ發
ス、此念ヲ節制スル能ハス、常ニ之ヲ厭カシムル
片ハ、其害極メテ多シ故ニ宜シク慎テ之ヲ省察
スヘシ、食餌ノ条ヲ
參看スヘシ
児童ノ爭鬪ヲ欲スル念及ヒ物ヲ破毀スル念ハ
極メテ幼稚ノ時ヨリ發スル者トス、其發フルヤ
固ヨリ純一無偽ノ意ニ出ツルト雖又或ハ強激
ニ過キ危害ヲ生スルノ虞ナキニアラス、顧フニ
此念ハ活潑氣力ノ過多ナルニ因ル者ニシテ是
亦貴フ可キノ性質ナレハ強テ抑制ス可キニ非

ヲサルナリ唯其發スルノ節度ニ過クルヲ戒メ
ンノ故ニ其爭鬪ヲ欲スルノ念ハ之ヲ誘導シ
常ニ耐忍シテ難事ニ克夫或ハ身體ヲ強壯ナラ
シムルノ運動ヲナサシム可シ其破毀ヲ好ムノ
念ハ真ニ衆庶ノ妨害タル諸物ヲ排除シテ裨益
ヲ為スノ方ニ導クヘシ徒ニ鳥獸ヲ毆傷シ友侶
ヲ苦辱シ裝飾必需ノ器用ヲ毀損シ或ハ忿怒怨
恨ノ為之ヲ發セシムルヲ防カンテ要ス凡現
童ハ其視聽スル事物ニ法ル之ヲ習熟スルノ性
ヲ有スルカ故ニ其眼前ニ於テ苟苛虐酷戾爭鬪

ノ如キ無狀ヲ示スト勿レ
児童ヲ教フルニ私欲ノ為ニ實ヲ隠スノ惡念ヲ
制シ人ト語ルニ誠慤無偽ニ出ツルノ習慣ヲ得
セシムルニ是實ニ緊要ノ一事ナリ此習慣ヲ得
セシメンニハ常ニ児童ヲ遇スルニ和順誠實ヲ
以テス可シ若シ之ニ反シテ刻薄不正ニ出ツル
キハ必、隱蔽ノ念ヲ挑起スルノ害アリ
欲得ノ念ハ財本ヲ有シ生計ヲ營シ凡、家國ヲ保
ツノ基本職トシテ此之ニ由ル即、人生欽ク可ラ
サル所ニシテ敢テ不善ト謂フ可キニ非ス然レ

凡此念ノ弊害ヲ生スル亦甚大ナリ之ヲ制治シテ其方向ヲ誤ラシメサルヲ樞要トス、無知ノ児童ニシテ己ノ欲スル物ハ己ノ有ト為レ、或ハ己ノ欲スル物ハ、獨自之ヲ食ヒ、或ハ人ト別チテ之ヲ貯フカ如キ、是皆母タル者、児ノ眼前ニ於テ之ヲ行ヒ、以テ其規範ヲ示スカ故ニ、容易ニ之ヲ習フ者トス、又児童ヲシテ事ニ從ハシムルニ物ヲ與ヘテ其餌ト為ス可ラス、又貨幣ノ貴キヲ知ラシムル太早キニ過ク可ラス、其有スル物ヲ鄭重ニ注意シ、以テ保存セシムルハ固ヨリ當然ノ事

ト雖、亦其物件ヲ貴ムハ甚シキニ過キ、或ハ之ヲ入ニ貸與スルヲ忌ミ嫌フノ習慣ヲ得セシムルハ甚善ナラス、
児童ヲシテ壯健ナラシメ且其歡娛ヲ得セシメンニハ、憤怒忿懣ノ情ヲ發スルヲ防クヘシ、其面前ニ於テハ苟念怒ノ聲ヲ發シ又ハ強暴ノ行ヲ為ス可ラス、凡児童ヲ教育スルノ初メハ專ラ顔色及ヒ風姿ニ管スルカ故ニ、母タル者能、其心ヲ平穩ナラシメ、常ニ活潑ニシテ且愉快ナルキハ、児童ニ亦自活潑ニシテ愉快ナルニ至ル可シ、児童

若シ怒ヲ發シテ已ムヲ得サルニ至ルキハ、母々
ル者其心神ヲ靜定シ怒氣ヲ退ク、嚴然トシテ其
威容ヲ觀シ、兎ヲシテ即其畏敵ス可キヲ知ラシ
ム可シ、更ニ兒童啼叫ノ聲ニ過越セル大聲ヲ發
シ、以テ之ヲ呵責スルカ如キハ、實ニ益無キノミ
ナラス、却テ多少ノ害ヲ來ス、故ニ兒童啼叫シテ
漫ニ得ント欲スル物品ハ、斷然投與セサルヲ以
テ、啼叫ノ習慣ヲ改メシムルノ良法トス、且斯ノ
如キ時ハ、暫人ヲ屏ケ唯母子二人一室ニ對居ス
可與着其旁ニ人在ルキハ、兒童蓋其勸諭ノ助

ヲ仰キ、以テ己ノ慾ヲ遂ケントスルニ至ル者ナ
リ
兒童ニ教フルニ、忌克自負ノ心ヲ禁シ、又自己ノ
歡娛情欲ヲ擅ニスルヲ制セシメ、他人ノ權ヲ思
ヒ、他人ノ情ヲ忖ルヲ以テス可シ、且母自カメテ
其規範ヲ示サスニハアラス、
食卓ニ憑リ濫ニ飲食ノ器具ニ觸レ、漫ニ己ノ欲
スル食品ヲ拏食シ、又ハ次序ナク坐スル等、総野
鄙不敬ノ習慣ヲ禁ス可シ
凡、兒童ヲ督制スルハ、愛撫ノ意ヲ以テス可シ、畏

嚇ヲ以テ之ヲ壓御ス可ラス、兒童強固ナルニ過
キテ頑梗ノ事アルモ敢テ抗爭ス可ラス、若シ之ヲ
抗爭スルキハ、兒童逾頑固ヲ極メ終ニ執拗シテ
教諭ヲ奉ヤサルニ至ル可シ、故ニ兒童若シ母ノ
教諭ヲ奉セサルキハ其意ヲ他ノ方向ニ赴カシ
メ、以テ仁愛誠實ノ心ヲ生セシムルニ注意ス可
シ、兒童ヲシテ教ニ從ハシメンカ為ニ、決シテ其
心ヲ畏怖セシム可ラス、蓋シ鬼說恠談ヲ以テ之ヲ
脅シ又ハ無根ノ虛誕ヲ以テ之ヲ驚愕戰慄セシ
ムルカ如キハ、管ニ其心ヲ怯懦ナラシムルノ害

アルノミナラス、兒童ト雖終ニ其語ル所ノ詐ナ
ルヲ識リ、亦自詐偽ヲ以テ人ヲ欺カントスルノ
念ヲ生ス可シ、

居ハ氣ヲ移シ養ハ體ヲ移ス、大人猶然リ況ヤ兒童
ニ於テヲヤ、是故ニ兒童ノ善心ヲ開發スルヤ家
人ノ行正レカラサレハ、其行隨ヒテ惡シク、隣並
ノ人不善ナルモ亦隨ヒテ不善ナリ、賢人識者ノ
門巷ニ生長スル兒童ハ、其行自善ナルハ、是自然
ノ勢ニシテ敢テ教ヲ待タサル所アリ、故ニ他人ノ
惡習ノ其兒ニ浸滌スルヲ防キ、且力所及交友ノ

善者ヲ撰ヒテ、遊戯ニ從事セシムヘシ、抑、児童ハ
元來聞見スル所ニ從ヒ、以テ移リ易キ、資アリ、
故ニ其平生聞見スル所ノ事ハ、善惡是非ヲ別タ
スレテ、習ヒテ以テ自其性ヲ成スニ至ル者ナリ、是
ヲ以テ母若シ怒聲ヲ發シテ譴責シ、或ハ漫ニ毆
打スルキハ、児童即之ヲ習ヒ遂ニ亦怒聲ヲ發シ
或ハ人ヲ毆打スルニ至ル、夫然リ故ニ苟、児童ノ
善心ヲ開發シ善道ヲ教ヘシニハ、一家ノ族人ハ
莫ニ児童ノ規範タル可キ正道ヲ行フ一極ニテ
緊要ナリ、若シ之ニ反スルキハ、児童ヲシテ不善

ニ陷ラシムル一影響ヨリモ猶速ナリ、故ニ母タ
ル者ハ其児ヲ教育スルニ、苟、苛責虐待ノ所為無
キニ注意セスンハアラサルナリ、

女範卷之中終

女範卷之二字書

体育

第十二章

乳母 トメノ 姿色 ヤキウリ 眼目 清亮 ノ

ウチス 心 神快暢

○ 飼メクパリガ 舉止 キクナ 傳婢

リコモ 齒 齧

○ 餵メクパリガ 斜視 レヤニ 偏盲

カメツ 吃訥

○ 倣擧 スマニ 放恣 マガ 頑愚

ワイルヂ 忿怒

○ 粗暴 ラテア 卑陋 レイヤ

第十三章

器翫 チオモ 洋製色料 エハク 施

装ツツケメ 物件

○ 厭心 コアキゴ 破毀 ハブス

○ 堅牢 クテイガ

○ 記得 エル

第十四章

遺弱 ベネセフ ○ 咳嗽 カキセ ○ 馬脾風 バヒル 名病 ○ 鬼藉 キセキ ナクウコ ○

頑情 グワンジヤク ○ 矯正 キョウセイ ホスタメナ ○ 夏楚 カソセ カンツ ○ 猪留 シロ マタ

○ 遷延 センエン 彌久 ミキウ ガタンクナ ○ 凝塊 キョウクワイ リコ ○ 顯頷 ケンガン 瘰癧 レリ

○ 瘡病 ソウビョウ ○ 粘膜 ネンマク カアハア ○ 脣齟 シンソ ハクチビル ○ 聾耳 ソウジ ミ

○ 頸圍 ケイイ マクビリ ○ 尙儻 ジョウソウ 病 ビョウ シセム ○ 鼓脹 コチョウ 如クイハコ

○ 腦熾 ノウシ 衝名 シヤウメイ ○ 瞳子 ドウジ シヒ ○ 散大 サンダイ ガルロ ○ 切齒 セツシ

○ 心育 シンイク ナロヒノ ○ 五官 ゴガン 嚙 カウ 聽 テイ 嚙 カウ ○ 畢生 ヒツセイ 盲聾 マウソウ ウガヤ

第一章

浸潤 シメン ナソレロ ○ 候鐘 コウショウ イトケ ○ 煩累 バンライ シヒイ ○ 根柢 ネテイ トネモ

○ 布帛 フボク キモメン ○ 瀏亮 リウリョウ ヤサカハ ○ 磔 ダク ラナ ○ 正鵠 テイコク テメア ○ 花

第二章 脣音 シンイン カク、チル、癸ル ○ 訛音 シイン マク、リニナ ○ 誤言 ゴゴン

第三章 野鄙 ノビ スゲ ○ 像画 ゾウガ ウエシガ ○ 興致 キョウシ ロオサモシ ○ 話

頭 カウ ナ ○ 諄乎 シンコ タカチツセ ○ 放縱 ホウジョウ マワガ ○ 悖德 ハイトク モワノル

第四章 趨舍 シュツヤ トオチソクキ ○ 毆傷 ウイショウ ウブチヤクヤ ○ 苦

○ 爭鬪 サウトウ クケワシ ○ 苛虐 カキョク ヒアハスメ ○ 酷戾 コクリ ユムゴナル

リ	ム	並	怪	ヤ	ガ	マ	ト	○	怒	魚
ア	ゴ	ト	談	ウ	ウ	ル	リ	忌	念	狀
ツ	イ	ナ	バ	シ	シ	シ	シ	克	懣	モ
カ	ト	ヨ	バ	○	○	○	○	マ	キ	チ
ヒ	ト	リ	ナ	執	畏	○	○	テ	ド	○
		キ	ケ	拗	カ	自	自	イ	ホ	誠
		○	シ	イ	ソ	負	負	ケ	ル	懣
		門	モ	カ	フ	ボ	ボ	キ	イ	懣
		巷	コ	チ	ケ	ウ	ウ	○	○	ヤ
		マ	ウ	カ	ド	レ	レ	威	威	ウ
		チ	ナ	ヤ	ル	○	○	容	容	ト
		カ	ホ	○	○	歷	歷	ル	ル	ウ
		ヤ	シ	畏	○	御	御	キ	カ	ツ
		○	バ	怖	ハ	リ	リ	○	タ	○
		毆	○	ガ	○	ニ	ニ	拏	タ	托
		打	詐	コ	鬼	○	○	食	シ	起
		テ	偽	ル	説	鬼	鬼	グ	タ	ヒ
		ウ	○	ハ	○	説	説	マ	○	コ
		チ	○	ソ	○	○	○	ヒ	○	ス
		○	○	○	○	○	○	ミ	○	キ
		虚	○	○	○	○	○	○	○	○
		待	隣	○	○	○	○	○	○	○

女範卷之中字書 終

女
靴

小田深藏譯述

卷之下

176
6
307

東

大日本圖書會館

函	二〇	一	二九	三
架	架	架	號	冊

函
架
號

CK